

◎乳幼児突然死症候群◎

○乳幼児突然死症候群（SIDS）とは○

それまで元気だった乳児が事故や窒息でなく眠っている間に突然死亡してしまう病気です。

日本では生まれてきた乳児の約2000人に一人の割合で発生しています。

そのほとんどが1歳未満の乳児期に起きています。原因はまだよくわかっていませんが、育児環境の中に乳幼児突然死症候群の発生を高める因子があることが明らかになってきました。

下記の3つの項目に気を付けると未然に防げるといわれています。

○未然に防ぐために○

①仰向けで寝かせましょう。

顔が見えるように仰向けで寝かせましょう。

②タバコはやめるか控えましょう。

妊娠中の喫煙は、お腹の子どもの体重が増えにくくなりますし、呼吸中枢にも良くない影響を及ぼします。

③できるだけ母乳で育てましょう。

母乳育児が乳児にとって最適であることは良く知られています。出来るだけ母乳で育てる事は大切です。しかし、人工乳が乳幼児突然死症候群を引き起こすものではありません。

○保育園で気をつけている事○

- ・乳児を絶対に一人にしません。
- ・午睡中0歳児は5分間隔、1・2歳児は10分間隔、幼児クラスは30分間隔で体勢、顔色、呼吸の様子などを確認します。
- ・敷布団は0歳児・1歳児では「ブレスエアー敷布団」を使用しています。
スプリング構造のクッション材で出来ていて、うつ伏せ寝の窒息を防止し通気性にも優れ衛生的です。
- ・0歳児を中心に午睡チェックセンサー、「るくみー」を導入し午睡の見守りを強化しています。
- ・乳児が寝ている近くには危険なものは置きません。
- ・スタイなどは午睡中、外しています。
- ・毎月健康診断を行い、発達の様子を把握しています。

